

2023.06.29. 木曜礼拝「道を踏み外さない 動き出す備えをする」

Leitu 牧師

頭を下げて、祈りませんか？ 主よ、感謝します。今夜、私たちにお語り下さい。私たちはあなたの御言葉にとっても感謝しています。主よ、あなたの御言葉を宣べ伝える牧師たちを祝福してくださったこの場所を感謝します。主よ、あなたの教えがどれほど人生を変え、どれほど私たちが必要であることを感謝します。ですから、私たちにお語り下さい。主よ、あなたは特別な何かを、今晚私たちを祝福してくださる何かを用意しておられることを、私たちは知っています。お語り下さい。この時間に感謝します。イエスの御名によって、アーメン。

アローハ！（会衆：アロハ！）どうぞお座りください。カルバリーチャペル・カネオへによろこそ。オンラインの皆さんも歓迎します。JD 牧師はまだ休暇中です。主が彼に必要な休息を与えてくださるよう続けてお祈りください。今夜はヨシュア記の続きです。2章に入りますが、これはかなり素晴らしい章です。もしまだ彼女を知らないなら、今夜ラハブに出会うことになるでしょう。始める前に、神が御言葉を祝福してくださるよう祈り求めましょう。

天の父なる神よ、私たちはあなたの御座の前に出て、ヨシュア、この力ある神の人、主の御言葉を掘り下げながら、今夜あなたがなさろうとしていることについて、ただすべての賛美を捧げます。私たちはただあなたの御前に来て、彼と、御言葉の中で用意されていることに感謝します。

主よ、私たちを教え導いてください。あなたの御前に出て、今夜ここであなたがなさろうとしていることを感謝し、賛美します。

主よ、私たちは十字架を決して忘れません。あなたがなさったこと、あなたの御子を遣わしてくださったことを決して忘れません。あなたが十字架にかからなければならなかった私たちの罪をお赦しください。イエスさま、私たちの罪をお赦しください。あなたは私たちのために多くの痛みを耐えなければなりませんでした。

聖霊さま、私たちはあなたの御前に出て祈り、あなたが私たちを封印してくださり、あなたが私たちの人生を導いてくださることを感謝します。

主よ、あなたは私たちを栄光から栄光へと変えてくださいます。主よ、今夜、あなたの御言葉を学ぶとき、私たちを導いてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

ヨシュア記 2章 1節。

ーヨシュア 2:1ー

ヌンの子ヨシュアは、シティムから、ひそかに二人の者を偵察として遣わして言った。「さあ、あの地とエリコを見て来なさい。」彼らは行って、ラハブという名の遊女の家に入り、そこに泊まった。

私たちは神の驚くべき恵みの力強さを目撃しようとしています。私たちは、ヘブル人への手紙の中で殿堂入りしている遊女ラハブに出会います。神はかつてこの異教徒を愛し、救われました。私たちの多くが同じような生き方をしてきたように、神は私たちにも同じことをしてくださいました。私たちは神に救いを求め、神は私たちを罪から救ってくださいました。今私たちは変えられ、私たちの多くは神によって力強く用いられています。エレミヤと同じように、神は私たちを胎内に造られる前から知っておられました。主は、私たちが主を選ぶことを知っておられ、私たちを選んでくださいました。そこでヨシュアは2人の部下を偵察に送り出します。ヨシュアは彼らを敵地に送り込みます。優れた将軍は常に土地の状況を把握するものです。彼は戦いの前に計画を立てます。ヨシュアが彼らを信頼していたことは分かって

います。これは危険な任務です。だから彼は最善の者たちを遣わしました。彼らはその土地、特に神がヨシアに示される最初の標的であるエリコを調査することになりました。二人の偵察者は命を懸けています。危険な任務になるでしょう。命を失う可能性もあります。偵察者たちはヨルダン川からエリコの町まで5マイルを旅しました。ヨシアは、彼らからの情報報告を待つことになります。1章で神はヨシアに、「強くあれ、雄々しくあれ」と仰います。ヨシアは才能ある軍事指導者でした。しかし、私たちはヨシアが神に頼り、主に信頼を置いていたのを知っています。最初の数章では、ヨシアが祈る姿は見られません。神がすべて語られ、すべての命令を下されたことを読みました。ヨシアが神と強い関係を持っていたことは分かっています。彼の指導者もまた、神の人、モーセでした。祈ることは、神とのコミュニケーションです。神と時間を過ごし、神に近づくことです。ヨシアは神に祈り、この務めにふさわしい人物を求めたに違いありません。ヨシアはまた、彼らの無事の帰還を祈ったに違いありません。だから、書かれてはいませんが、ヨシアが神と語り合ったことがわかります。神がヨシアに語り返されたからです。ここまでの成功は、ヨシアが神の友であったことの証拠、証明です。私たちは、友人同士は、互いに話し合うことを知っています。ヨハネの福音書15章7節に書かれています。イエスが語っておられます。

—ヨハネ 15:7—

あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。

「わたしにとどまりなさい」という言葉の中で、イエスは従者たちに、イエスとの関係の中でつながっていることを求めておられます。ヨシアは主につながり、主にとどまっている人であり、主は彼を大いに祝福されました。ヨシアは準備が整っています。彼は自分の計画を立てましたが、主が最終決定を下されることも知っています。詩篇37章23節から26節にこうあります。

—詩編 37:23—

主によって 人の歩みは確かにされる。主はその人の道を喜ばれる。

—詩編 37:24—

その人は転んでも 倒れ伏すことはない。主が その人の腕を支えておられるからだ。

—詩編 37:25—

若かったころも年老いた今も私は見たことがない。正しい人が見捨てられることを。その子孫が食べ物を乞うことを。

—詩編 37:26—

その人はいつも情け深く 人に貸す。その子孫は祝福を得る。

エレミヤ書10章23節から24節にこうあります。

—エレミヤ 10:23—

主よ、私は知っています。人間の道はその人によるのではなく、歩むことも、その歩みを確かにすることも、人によるのではないことを。

—エレミヤ 10:24—

主よ、私を懲らしめてください。御怒りによらないで、ただ、公正をもって。そうでなければ、私は無に帰してしまいます。

箴言16章9節。

一箴言 16:9一

人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、主が人の歩みを確かにされる。

ヨシュアは計画を立てていますが、神はそれを変えることがお出来になると彼は知っています。人生において短期的、長期的な計画を立てるのは賢明なことですが、しかし、イエス・キリストを信じる者として、私たちは実現するのは神のご計画であることを知っています。だから、自分たちが立てた計画は、ゆるく掴みましょう。神は全知全能です。神はすでにすべてを知っておられます。クリスチャンであれば、神のご計画が私たちの人生において常に勝利をもたらすことを知っています。私たちの人生に対する神のご計画に関して、神と戦わないように祈ります。主のご計画は、私たちが立てるどんな計画よりも無限に優れています。アーメン？（会衆：アーメン）

ヨシュアと 200 万人以上のイスラエル人が準備しています。彼らはまだエリコの町から川を隔てたモアブに宿営しています。数日後、彼らはずいにヨルダン川を渡ります。エリコの町の大きさは 9 エーカーで、城壁に囲まれていました。ヨシュアは戦略的に、まずエリコを攻略する計画を立てました。その後、軍事基地として使われますが、イスラエルの民にとっては仮の住まい、仮のテント小屋にもなります。ヨシュアはそこから軍を率いて、カナン中央をまっすぐに進軍することができました。そうすれば、北と南の部族は断ち切れ、カナン軍は力を合わせるができなくなり、ヨシュアは南の町々、つまり弱い町々を攻撃することができます。南軍が敗れば、ヨシュアは北に向います。一方、神は偵察者たちの歩みを指揮しておられました。主は彼らを宿屋の主人のところへ導かれました。主は彼らをラハブに導かれました。彼女は宿屋の女主人であり、遊女でもあります。彼女には不道德な評判がありますが、神は彼女を用いられます。ラハブが主によって力強く用いられることを、これから見ていきます。

神はこの異邦人の女性に驚くべき計画をお持ちです。神が私を用いてくださるとは思ってもいませんでした。主とともに歩み、主との関係を持つことがこれほど素晴らしい人生だとは想像もしていなかったので、私は今でも信じられません。日々、主は私の人生に主の力強さを見せてくださいます。皆さんにも、人生における神の驚くべき恵みの物語、神があなたを救い出してくださった物語、神があなたの人生に成してくださった驚くべき物語があるだけでなく、主が私たちを男性として、女性としてどのように成長させ、成熟させ、主の御言葉である聖書をどのように教えられ、イエスのためにどのようにあなたを用いて世に伝えておられるのかを知っています。十字架のメッセージを受け入れたことをとても感謝しています。悲しいことに、神の救いを拒む者があまりにも多いのです。この章を読むかどうか悩んだのですが、読んでみましょう。きっと楽しめると思います。第一コリント人への手紙 1 章 18 節からです。

一コリント 1:18一

十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。

一コリント 1:19一

「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、悟りある者の悟りを消し去る」と書いてあるからです。

一コリント 1:20一

知恵ある者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の論客はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。

一コリント 1:21一

神の知恵により、この世は自分の知恵によって神を知ることがありませんでした。それゆえ神は、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救うことにされたのです。

ーIコリント 1:22ー

ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシア人は知恵を追求します。

ーIコリント 1:23ー

しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かなことですが、

ーIコリント 1:24ー

ユダヤ人であってもギリシア人であっても、召された者たちにとっては、神の力、神の知恵であるキリストです。

ーIコリント 1:25ー

神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

ーIコリント 1:26ー

兄弟たち、自分たちの召しのことを考えてみなさい。人間的に見れば知者は多くはなく、力ある者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。

ーIコリント 1:27ー

しかし神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選ばれました。

ーIコリント 1:28ー

有るものを無いものとするために、この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち無に等しい者を神は選ばれたのです。

ーIコリント 1:29ー

肉なる者がだれも神の御前で誇ることがないようにするためです。

ーIコリント 1:30ー

しかし、あなたがたは神によってキリスト・イエスのうちにあります。キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになりました。

ーIコリント 1:31ー

「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。

遊女の生活は神の基準に反しています。かつてラハブは、神に従う生き方は愚かなことに違いないと思っていたはずですが。しかし、当時の世界情勢が彼女を立ち止まらせました困難が彼女の身に降りかかり、それは彼女の破滅を意味するかもしれません。彼女は神について考え直そうとしています。私たちの多くにとって、私たちがイエスに向かわせたのは困難でした。ヨシュア記2章2節に進みましょう。

ーヨシュア 2:2ー

ある人がエリコの王に、「イスラエル人の数名の男たちが今夜、この地を探ろうとして入って来ました」と告げた。

そこでエリコの王は警備隊に見張りをさせました。ヨシュアの部下たちは質問をしすぎたのかもしれませんが。彼らの話し方でバレたのかもしれませんが。外見のせいかもしれませんが。いずれにせよ、バレてしまいました。ヨシュア記2章3節。

ーヨシュア 2:3ー

それで、エリコの王はラハブのところに来て、おまえの家に入

った者たちを出せ。その者たちは、この地のすべてを探ろうとしてやって来たのだから。」

確かにエリコの王はイスラエル人が来たことを知っていました。この地域のすべての国々は、イスラエルが何をしようとしているのかを知っていました。彼らは自分たちの正当な土地を主張しに来たのです。200万人以上を荒野に隠すことはできません。エリコの王はイスラエルの民を待ち、見張っていたのでしよう。王は警備部隊に見張りをさせ、兵士たちは王に報告します。そして誰かが、二人の偵察者がラハブの宿屋に入るのを見ました。彼らはこの偵察者を逮捕するためにラハブの宿屋に行きます。ラハブの宿屋は有名だったに違いありません。情報が欲しければ、ラハブを訪ねるのです。王は偵察者がラハブを訪れたことを知っています。王は即座にラハブに彼らを出すよう命じます。敵は私たちの人生における神のご計画を妨げようとしませんが、神はご自分の民を助けるためにこの女性を用いられます。主は、彼女が主を信じたことを知っておられました。彼女は遊女でしたが、神に選ばれた一人でした。主は、いつか彼女が悔い改め、自分の人生を主に委ねることを知っておられました。エレミヤ書 29 章 11 節から 13 節にこうあります。

—エレミヤ 29:11—

わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている——主のことば——。それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。

—エレミヤ 29:12—

あなたがたがわたしに呼びかけ、来て、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに耳を傾ける。

—エレミヤ 29:13—

あなたがたがわたしを捜し求めるとき、心を尽くしてわたしを求めらば、わたしを見つける。

私たちの歴史がどうであれ、神は私たちを用いることができになります。過去があるからといって、神があなたの人生に与えられた召しから逃げないでください。あなたは赦されています。前へ進み、神に用いていただきましょう。自分にはこの人生を変えることはできないと思っははいけません。神はあなたの人生を用いて、世界に変化をもたらすことを望んでおられます。神はあなたを用いて、偉大で強大なことを成し遂げることができになります。私たち一人ひとりに証があります。人々は見えています。彼らは希望が必要なので、あなたを見えています。エペソ人への手紙 2 章 10 節にこうあります。

—エペソ 2:10—

実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリストイエスにあって造られたのです。神は私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。

へブル人への手紙 13 章 20 節から 21 節にこうあります。

—へブル 13:20—

永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを、死者の中から導き出された平和の神が、

—へブル 13:21—

あらゆる良いものをもって、あなたがたを整え、みこころを行わせてくださいますように。また、御前で見こころにかなうことを、イエス・キリストを通して、私たちのうちに行ってくださいますように。栄光が世々限りなくイエス・キリストにありますように。アーメン。

だから、今度神があなたに何かをするようにと召されたら、それに向かって進み、神に導いていただき、備えてもらいましょう。アーメン？（会衆：アーメン）

ヨシュア記 2 章 4 節から 7 節です。

ーヨシュア 2:4ー

ところが、彼女はその二人をかくまって言った。「そうです。その人たちは私のところに来ました。でも、どこから来たのか、私は知りません。

ーヨシュア 2:5ー

暗くなって門が閉じられるころ、その人たちは出て行きました。どこへ行ったのか、私は知りません。急いで彼らを追ってごらんください。追いつけるかもしれません。」

ーヨシュア 2:6ー

彼女は二人を屋上へ上がらせ、屋上に積んであった亜麻の茎の中におおい隠していた。

ーヨシュア 2:7ー

追っ手たちはヨルダン川の道をたどり、渡し場までその人たちを追って行った。門は、彼らを追う追っ手たちが出て行くと、すぐに閉じられた。

ラハブは身の危険を顧みず、この男たちをかくまいました。イスラエル人の評判が先行していたのです。神は奇跡を起こされた諸国の人々は聞いていました。彼らはエジプトでの十の災いを聞き、ファラオが一人息子を失ったことを聞いていました。人々は死の御使いのことを知っていました。そこで彼女は、神の民を助ける決意をします。男も女も、真の生ける神を知っています。彼らは神をイエスとして知らないかもしれませんが、神を知っています。彼らは無神論者だと言うかもしれませんが、心の底ではわかっています。私が12歳のとき、親友が私に質問しました。彼の名前はトニー・オオシロ。妻のジーニーの弟です。彼は私に神を信じるかと尋ねました。私は「うん、信じるよ」と答えました。この会話は、私が青年時代に覚えている唯一の会話でした。神は、私が救われたときにこのことを思い出し、証しとして使えるようにと、このことを私の記憶の中に植え付けてくださったのだと私は知っています。私は子どもの頃、一度も教会に足を踏み入れたことがありませんでした。母の出身地であるトケラウでは、母は日曜日にいつも教会に行っていました。私の義父は司祭を助ける従者としてひどい経験をしました。だから、若い頃は教会に行ったことはありませんでした。学校で子どもたちが神について話しているのを聞きました。私は神のことを何も知りませんでした。サンタクロースは知っていましたが、イエスは知りませんでした。しかし私の良心は、神は存在し、実在すると語っていました。それから私は救われ、この聖句に衝撃を受けました。ローマ人への手紙2章12節から15節です。

ーローマ 2:12ー

律法なしに罪を犯した者はみな、律法なしに滅び、律法の下にあって罪を犯した者はみな、律法によってさばかれます。

ーローマ 2:13ー

なぜなら、律法を聞く者が神の前に正しいのではなく、律法を行う者が義と認められるからです。

ーローマ 2:14ー

律法を持たない異邦人が、生まれつきのみで律法の命じることを行う場合は、律法を持たなくても、彼ら自身が自分に対する律法なのです。

ーローマ 2:15ー

彼らは、律法の命じる行いが自分の心に記されていることを示しています。彼らの良心も証ししていて、彼らの心の思いは互いに責め合ったり、また弁明し合ったりさえするのです。

このローマ人への手紙2章で、パウロは同胞であるユダヤ人たちを懲らしめています。パウロはイスラ

エル人です。同胞を愛しています。彼はイスラエル人の一人であり、イスラエルで最も優れた宗教家の一人です。彼はユダヤ教という宗教を熟知していました。伝統とユダヤの祭りは彼の頭に染み付いていました。イエスがダマスコへの道でパウロに向き合われたとき、パウロにできたことはただ降伏することだけでした。(使徒の働き 9:3 - 5 参照)

彼は、トーラー（聖書の最初の 5 書）のすべてがイエスを指し示していることに気づきました。しかし、救われる前の使徒パウロは、ユダヤ人が考えるように考えるべきだと思っていました。ユダヤ人は律法、トーラー、割礼があるので、自分たちは異邦人より優れていると思っていました。彼らは自分たちが神に選ばれた民であることを知っているのので、異邦人の罪を責めます。しかし、ユダヤ人も同じことをしていました。彼らは異邦人と同じか、それ以上に悪いのです。そこでパウロは彼らの偽善を叱責します。ユダヤ人は世界に対する神の代理人であるはずでした。彼らは神の光を世に放つべきなのに、異邦人と同じように邪悪でした。パウロが触れた異邦人たちは神の御言葉を持っていませんでしたが、彼らの良心が善悪について語っていました。彼らの良心は、神は存在すると告げていました。だから、教会にも行かず、聖書も読んだことがないのに、友人のトニーに神を信じるかと聞かれたとき、私は「うん、信じる」と答えました。私の良心は、神は存在すると私に語っていました。ただ、神に降伏するのに時間がかかったことが残念です。だから、ラハブは神について詳しいことは知らなかったかもしれませんが、神が実在することは知っていました。彼女の良心が神の存在を語っていました。本能的に、彼女は知っていて、信じていました。彼女はイスラエルに対する主のご好意の話を聞きました。彼女は、イスラエルの民が神を礼拝し、その神は彼女の良心が明らかにした真の生ける神であることを知っていました。ラハブは遊女であり、宿屋の主人でもありました。繰り返しますが、誰もが彼女を知っていました。おそらくパーティの中心人物だったのでしょう。男たちは彼女の店に集まってきます。しかし、そこには喪失感があり、彼女の心には空虚感がありました。神は私たちが神の喜びのために創造されました。主は私たちが、主との交わりを持つために創造されました。私たちは皆、心の中に神の形をした空洞があります。この空洞はイエスによってのみ埋められます。アーメン？（会衆：アーメン）

世界とその宝物は、この空洞を埋めることはできません。どんなに努力しても、どんなにお金を使っても、この空洞を埋めることはできません。私たちは有名人や金持ちの話を常に耳にします。彼らは多くのものを持っていますが、富と名声は決して彼らを満足させません。そして、彼らが自ら命を絶ったという報道を耳にします。罪深い環境に身を置くと、ラハブのような罪のライフスタイルが身に付いてしまいます。それが私を衰えさせました。だから私は 23 年前に助けを求めました。私はイエスを呼び求め、その直後に救われました。主は私の人生にある人を遣わし、福音を伝えてくださいました。繰り返しますが、この空洞はイエスによってのみ埋められます。私たちはこの空洞を物質的なもの、世俗的な哲学、アルコール、ドラッグ、セックス、ロックンロールで埋めようとしています。このような悪に屈し、魂を失う者があまりにも多いのです。そのために多くの人が命を落とします。この空洞は、やはり神によってのみ埋められます。救われている私たちは知っています。その気持ちがわかります。私たちは、この世界にいたときのことを覚えています。それから私たちは救われ、まったく新しい世界が開かれました。私たちは三位一体について学びました。父なる神、御子イエス・キリスト、そして聖霊です。私たちが長い間抱えていた空洞は、愛、喜び、平安、忍耐、優しさで満たされました。井戸の女性のように、私たちは永遠の命の泉を見つけました。井戸の女性のように、ラハブも命の泉を見つけます。ヨハネの福音書 4 章 13 節から 14 節。

—ヨハネ 4:13—

イエスは答えられた。「この水を飲む人はみな、また渴きます。

—ヨハネ 4:14—

しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」

これから読む 5 節は力強いです。ラハブは隠れている男たちのところへ行きます。彼女は何が起こるかわかっていると彼らに話します。そして信仰によって、神がどんなお方であることを告白します。ヨシュア記 2 章 8 節から 11 節。

—ヨシュア 2:8—

二人がまだ寝ないうちに、彼女は屋上の彼らのところへ上がり、

—ヨシュア 2:9—

彼らに言った。「主がこの地をあなたがたに与えておられること、私たちがあなたがたに対する恐怖に襲われていること、そして、この地の住民がみな、あなたがたのために震えおののいていることを、私はよく知っています。

—ヨシュア 2:10—

あなたがたがエジプトから出て来たとき、主があなたがたのために葦の海の水を涸らされたこと、そして、あなたがたが、ヨルダンの川向こうにいたアモリ人の二人の王シホンとオグにしたこと、二人を聖絶したことを私たちは聞いたからです。

—ヨシュア 2:11—

私たちは、それを聞いたとき心が萎えて、あなたがたのために、だれもが氣力を失ってしまいました。あなたがたの神、主は、上は天において、下は地において、神であられるからです。

真の生ける神のなんと力強い宣言でしょうか。ラハブは、神の力強さ、神の民のために神がなさったことについてのすべての話を聞き、彼女の良心は、このイスラエルの神は真の生ける神であり、ヨシュアを導き、繁栄させておられると語りました。世界中の多くの人には信じていません。彼らの良心は神がいることを語っていますが、愚かで盲目的なプライドが聖書の真理を見えなくしているのです。信仰によって、ラハブは神の民を助けることを決意し、同時に自分の民と彼らの偽りの神々を捨てました。発覚すれば国家反逆罪に問われ、石打ちの刑に処されるでしょう。カナンの全土は、イスラエルがやって来ることを知っていました。彼らは歴史を知っており、その土地が誰のものか知っています。人々は恐怖に怯え、これから起こることを恐れています。彼らは神がなさった紅海の奇跡について聞き、邪悪な王たちとの戦いの勝利を聞いていました。カナン人は落胆し、勇気を失っています。ヨシュアがやって来ます。神が導いておられます。ラハブは神についてあらゆる知識を持っていたので、自分がどちら側につくかについて賢明な選択をしました。彼女はこのことをずっと考えていたのだと思います。聖書に出てくるルツのように、彼女は神の民を選びました。ルツ記 1 章にそのことが書かれています。ルツの義母ナオミの息子たちは亡くなりました。ナオミは娘婿二人に母国に帰ってもらいたかったのです。ルツは義母をととても愛しています。彼女と離れたくありません。ルツに対する神のご計画は、神の完璧なご計画通りに進んでいます。ルツ記 1 章 14 節から 16 節にそのことが書かれています。

—ルツ 1:14—

彼女たちはまた声をあげて泣いた。オルパは姑に別れの口づけをしたが、ルツは彼女（ナオミ）にすがり

ついた。

—ルツ 1:15—

ナオミは言った。「ご覧なさい。あなたの弟嫁は、自分の民とその神々のところに帰って行きました。あなたも弟嫁の後について帰りなさい。」

—ルツ 1:16—

ルツは言った。「お母様を捨て、別れて帰るように、仕向けないでください。お母様が行かれるところに私も行き、住まれるところに私も住みます。あなたの民は私の民、あなたの神は私の神です。」

ナオミにしがみついたルツのように、私たちもイエスに全力でしがみつくよう祈ります。ルツはナオミを尊敬していたモアブ人の女性です。ルツは、ナオミの生き方によって神を知り、神を愛しました。ナオミは主の生きた証しでした。ナオミは神に仕える女性としてあるべき生き方をしました。そう、彼女の人生は試練と死で満ちていました。彼女は夫と2人の息子を失いましたが、主への信頼と愛は揺らぐことはありませんでした。ナオミの歩み方と話し方は一致していました。神は彼女を大いに用いられたのでしょう。彼女はルツをボアズとの結婚へと導きました。ボアズはオベデを生み、オベデはエッサイを生みました。エッサイはダビデ王を生み、イエスはその血筋を受け継がれました。異邦人であるルツは、イエスの家系の一部でした。私は、言葉であれ行動であれ、イエスをよく表すよう励ましたいと思います。私たちの主とともに、良い歩みをしましょう。誰があなたの人生を見ているかわかりません。ナオミのように、人々がイエスを見ることができるよう、あなたの光を輝かせてください。自分の生き方において福音を伝えることによって輝きましょう。そして機会があれば、言葉を使いましょう。マタイの福音書5章13節から16節にこうあります。

—マタイ 5:13—

あなたがたは地の塩です。もし塩が塩気をなくしたら、何によって塩気をつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけです。

—マタイ 5:14—

あなたがたは世の光です。山の上にある町は隠れることができません。

—マタイ 5:15—

また、明かりをともして升の下に置いたりしません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいるすべての人を照らします。

—マタイ 5:16—

このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。

ラハブは、イスラエルの話を聞いていました。彼女は常連客から直接知識を得ています。軍人と民間人が彼女の門を叩きましたが、彼女は今、神と対面しています。彼女は主を礼拝する二人のイスラエル人男性に話しかけました。彼女は、真の生ける神の力が迫っていることを知っています。ラハブは遊女としての生活に嫌気がさしていたのだと思います。次から次へと現れる道徳心のない男たち、その多くは既婚者であり、姦淫を犯していました。井戸の女性と同じように、ラハブも知っていました。自分は有罪であると、分かっていました。この男たちには品性も高潔さもありません。誠実さも敬意もありません。彼らは気弱で、勇気がない。イスラエルの民がやって来るので、恐れています。彼女が出会った神に仕える二人の男性とは、なんとという違いでしょうか。ヨシユアが選んだ者たちなので、そのはずです。汚い言葉を使

わなない男たちと話すのは、なんと新鮮なことでしょう。彼らは体格も良く、力もあります。彼らは献身的で勇敢な兵士たちであり、敵に囲まれた敵の街にたった 2 人で乗り込む勇気もあります。本物の男たちであり、神に仕える男たちです。信仰によって、彼女は神の側につくことを選び、この二人の偵察者を助けることを選びました。同胞の側につくことを選ぶこともできたはずですが。いずれにせよ、彼女は命の危険にさらされています。これから来られる神は、真の生ける神です。彼女は偶像礼拝と偽りの礼拝にうんざりしています。彼女は偽りの神の汚さと欺瞞を知っています。モレクの生け贄にされた赤ん坊を見してきました。常連客の放蕩ぶりを見してきました。彼女はあまりにも多くの悪と邪悪なものを見してきました。人生を変える時です。彼女は賢明な選択をしました。神はすでに彼女の選択を知っておられました。これから先、神は彼女を力強く用いてくださるでしょう。この時点では、ラハブは自分の人生が歴史に与えた影響を全く理解していません。神は彼女の人生に何を計画されているのか、彼女にはわかりません。今夜ここにいる人や オンラインの人の中には、この話を知っている人もいます。でも、そうでない人は驚くことでしょう。しかし、私たちは驚くべき神に従っているのです。ヨシュア記 2 章 12 節から 13 節にこうあります。

—ヨシュア 2:13—

今、主にかけて私に誓ってください。私はあなたがたに誠意を尽くしたのですから、あなたがたもまた、私の父の家に誠意を尽くし、私に確かなしるしを与え、

—ヨシュア 2:14—

私の父、母、兄弟、姉妹、また、これに属するものをすべて生かして、私たちのいのちを死から救い出す、と誓ってください。」

信仰によって、彼女はこの二人の偵察者を助けました。そう、ラハブは命の危険にさらされながらも、家族を愛し、彼らを救いたかったのです。彼女はイスラエルとの人生にチャンスがあることを知っています。自分の家族全員を救ってほしかったのです。彼女は、家族の誰も彼女が反逆罪を犯しているとして、警察に突き出さないことを願っています。家族が自分の話を聞いてくれることを願っています。そこで彼女は、偵察者をかくまったことへの報いとして、助けてくれるよう懇願しました。彼らに誠意を求めました。2 章 14 節。

—ヨシュア 2:14—

二人は彼女に言った。「私たちはあなたがたに自分のいのちをかけて誓う。あなたがたが私たちのことをだれにも告げないなら、主が私たちにこの地を与えてくださるとき、あなたに誠意と真実を尽くそう。」

この男たちはラハブと契約を結びます。

「私たちはあなたの安全を保証するために自分の命をかけます。もしあなたが裏切らなければ、私たちは約束を守り、主が私たちにこの土地を与えてくださるとき、あなたたちに誠意を尽くします。」彼らは約束を破りません。彼らはラハブの家族に誠意を尽くすことを誓いました。しかし、もしラハブが何か情報を漏らしたら、約束は破られ、彼女の家族も壊れてしまいます。ヨシュア記 2 章 15 節から 16 節です。

—ヨシュア 2:15—

そこで、ラハブは綱で窓から彼らをつり降ろした。彼女の家は城壁に建て込まれていて、彼女はその城壁の中に住んでいた。

—ヨシュア 2:16—

彼女は二人に言った。「山地の方へ行ってください。追っ手たちがあなたがたに出くわすといけませんか

ら。彼らが引き揚げるまで、三日間そこに身を隠しててください。その後で、あなたがたが行く道を行かれたらよいでしょう。」

ラハブの家は町の城壁の中に建てられていました。彼女は窓からロープで偵察者を降ろします。彼女はこう言いました。「山地の方に逃げ、3日間身を隠し、彼らが捜すのをあきらめれば、あなたは自分の道を行くことができる」17節から18節です。

—ヨシュア 2:17—

二人は彼女に言った。「もしこのようにあなたが行わないなら、あなたが私たちに誓わせた、あなたへのこの誓いから私たちは解かれます。」

—ヨシュア 2:18—

見なさい、私たちはこの地に入って来ます。私たちをつり降ろした窓に、この赤いひもを結び付けておきなさい。あなたの父、母、兄弟、そして、あなたの一族全員をあなたの家に集めておきなさい。

彼らは彼女に、「あなたがこの指示に従う場合に限り、私たちはこの誓いに従います」と言います。「私たちがこの土地に入るとき、この緋色のひもを、私たちを逃がした窓から垂らしておかなければならない。そして家族全員、父、母、兄弟、親戚全員が家の中にいなければならない。」緋色は真っ赤な色です。私たちは、イスラエルがエジプトいたときのことを覚えています。民はモーセとともに脱出する準備をしています。子羊の緋色の血は、イスラエルのすべての長子を救いました。イスラエル人は死の御使いが過ぎ越す間、家にいなければなりません。エジプト王ファラオは息子を失いました。私たちは、イエスが十字架にかかり、その体が碎かれ、私たちが救われるために緋色の血が注がれたのを見ています。それと同じように、緋色のひもはラハブとその家族を救います。19節から21節。

—ヨシュア 2:19—

あなたの家の戸口から外に出る者がいれば、その人の血はその人自身の頭上に降りかかり、私たちに罪はありません。しかし、あなたと一緒に家の中にいる者のだれにでも手が下されたなら、その人の血は私たちの頭上に降りかかります。

—ヨシュア 2:20—

だが、もしあなたが私たちの、このことをだれかに告げるなら、あなたが私たちに誓わせた、あなたへの誓いから私たちは解かれます。」

—ヨシュア 2:21—

彼女は「おことばどおりにしましょう」と言い、二人を送り出した。彼らは去り、彼女は窓に赤いひもを結んだ。

偵察者たちは、ラハブが理解しているか確認しました。「ラハブ、私たちが来たら、家族を外に出さないように。もし通りに出れば、殺されます。それは私たちの責任ではありません。しかし、もし誰かがあなたの家の中であなたの仲間に手を出したら、私たちは彼らの死の責任を引き受けますが、よく聞きなさい、ラハブ。もしあなたが裏切るなら、私たちはこの誓いに一切縛られません。」彼女は「あなたの条件を受け入れます」と言い、彼らを帰らせました。そして緋色のひもを窓に吊るしました。ヨシュア記2章22節から24節。

—ヨシュア 2:22—

彼らはそこを去って山地の方へ行き、追っ手たちが引き揚げるまで、三日そこにとどまった。追っ手たちは道中くまなく捜したが、彼らは見つからなかった。

ーヨシュア 2:23ー

二人は帰途についた。山地から下り、川を渡り、ヌンの子ヨシュアのところに来て、その身に起こったことをことごとく彼に話した。

ーヨシュア 2:24ー

彼らはヨシュアに言った。「主はあの地をことごとく私たちの手にお与えになりました。確かに、あの地の住民はみな、私たちのゆえに震えおのいています。」

特別な任務で派遣されたヨシュアの部下たちが戻ってきました。素晴らしい知らせを持って戻ってきました。カナンの民は怯え、恐れ、気弱になり、戦いは始まってもしないのに、あきらめてしまっています。これはヨシュアにとって重大な知らせでした。ラハブはこの情報を偵察者に伝えました。繰り返しますが、彼女はイスラエルの神の側につき、とてつもない祝福を受けることとなります。セムの子孫であるヨシュアは、ヨルダン川を渡り、先祖アブラハムを通して約束された土地を征服する準備ができています。しかし、カナンの地にはわずかな残された者/レムナントがいました。私は聖句の中で、「残された者/レムナント」という言葉が大好きです。それはシンプルに、信者の小さなグループを意味します。世の中のシステムは神と敵対しており、最初からそうでした。この世でイエスを愛する者は、イエスのレムナント/残された者、つまり新しく生まれた者、救いを求めてイエスを呼び求めた者です。世界でもそう多くはありません。マタイの福音書7章13節から14節にこうあります。

ーマタイ 7:13ー

狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこから入って行く者が多いのです。

ーマタイ 7:14ー

いのちに至る門はなんと狭く、その道もなんと細いことでしょう。そして、それを見出す者はわずかです。

カナンの地には、残された者たちがいました。それはラハブとその家族で占められており、彼女は真の生ける神が誰であるかを知っていました。2章11節で彼女は偵察者にこう言いました。

「あなたがたの神、主は、上は天において、下は地において、神であられるからです。」

12節で、彼女は偵察者たちに、自分の家族を助けることを主に誓って約束してくれるよう懇願しました。ラハブが自分のために助けを求める姿は見たことはありませんが、彼女はイスラエルの神を信じる者でした。彼女の名前は、へブル人への手紙に書かれています。神はラハブに特別な召しと計画を持っておられます。神は彼女を信仰の殿堂に挙げられました。へブル人への手紙11章30節から31節

ーへブル 11:30ー

信仰によって、人々が七日間エリコの周囲を回ると、その城壁は崩れ落ちました。

ーへブル 11:31ー

信仰によって、遊女ラハブは、偵察に来た人たちを穏やかに受け入れたので、不従順な者たちと一緒に滅びずにすみしました。

へブル人への手紙の「信仰の殿堂」には、サラとラハブという2人の女性が含まれています。ラハブは異邦人であり、遊女であり、女性でした。血統、職業、性別、これらすべての要素によって、彼女は信仰の殿堂から除外されるはずなのに、それでも含まれたのです。彼女は自分の国から主へと立ち返りました。ヨシュアが送った偵察者を救いました。彼女は神が自分を救ってくださると信じ、信頼しました。彼女は聖書に登場する最初の異邦人であり、聖書の神を信じていました。ラハブもまた、自分の罪から立ち返っ

たので、殿堂に入りました。神を恐れ、敬いました。神は彼女の信仰を尊重し、祝福されました。彼女は天国にいます。彼女は地上にいます間に息子をもうけました。その名はボアズ。彼はルツと結婚しました。マタイの福音書1章では、イエスの家族、つまりイエスの血筋、肉体の先祖が描かれています。マタイの福音書1章5節から6節にこうあります。

—マタイ 1:5—

サルマがラハブによってボアズを生み、ボアズがルツによってオベデを生み、オベデがエッサイを生み、

—マタイ 1:6—

エッサイがダビデ王を生んだ。…

ラハブは遊女で、イスラエル人のサルマと結婚しました。二人の出会いや結婚については何も語られていません。しかし、イエスとともにいたマタイは、サルマとラハブの結びつきがボアズを生んだと書いています。ボアズはルツというモアブ人の女性に出会います。ルツについては先ほど読みました。ラハブはルツの義理の母です。ボアズとルツにはオベデという息子がいました。オベデには、私たちの多くが知っているエッサイという息子がいて、エッサイはダビデ王の父です。それから約1000年後、イエスが誕生されました。イエスはダビデ王の血筋に生まれました。世の救い主、私たちの主イエス・キリスト、主の家系は罪だらけで、波瀾万丈の過去を持つ者たちばかりでした。ラハブもその一人でした。神は御子イエスのために一人の遊女を用いられました。彼女は評判の良くない宿を営んでいましたが、悔い改めました。真の信者なら共感できます。私たちの歴史もまた汚れています。私たちはみな罪を犯し、墮落しています。もしあなたがイエスとの関係を持っておらず、救われていないのなら、私はここにいる人たちやオンラインの人たちのために祈ります。あなたが救われるために主に呼び求めることを祈ります。シンプルなことです。ただ、「イエス様、私は助けが必要です。来て、私を救ってください。」とってください。ヨシュアは神に仕えるまっすぐな人でした。ラハブは評判の悪い女性でした。天国で2人に会えるでしょう。二人とも主を愛し、主に仕えました。神は彼らの人生に計画と召しを持っておられました。私たちは常に道を踏み外さず、神が私たちを召されたときに動き出す準備を常にしておきましょう。アーメン。(会衆：アーメン) お立ちください。祈りましょう。

天の父よ、あなたの御前に出て、あなたの御言葉に感謝します。ああ、主よ、あなたがとても良いお方で、あなたは神であられ、私たちをととても愛して下さったことを感謝します。ヨシュア記を読み、ラハブ、ルツ、そしてこれらの家族がどのように結びついているかを見るとき、あなたの御子は、私自身もその一人である罪びとの家系を通してお生まれになりました。だから、主よ、あなたが私たちの人生にこれからしてくださることを感謝します。主よ、私たちが準備し、整え、私たちの人生においてあなたが私たちのために用意してくださることに備え、揺らぐことがないように。父よ、これらのことを祈ります。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7